

RYOBI[®]

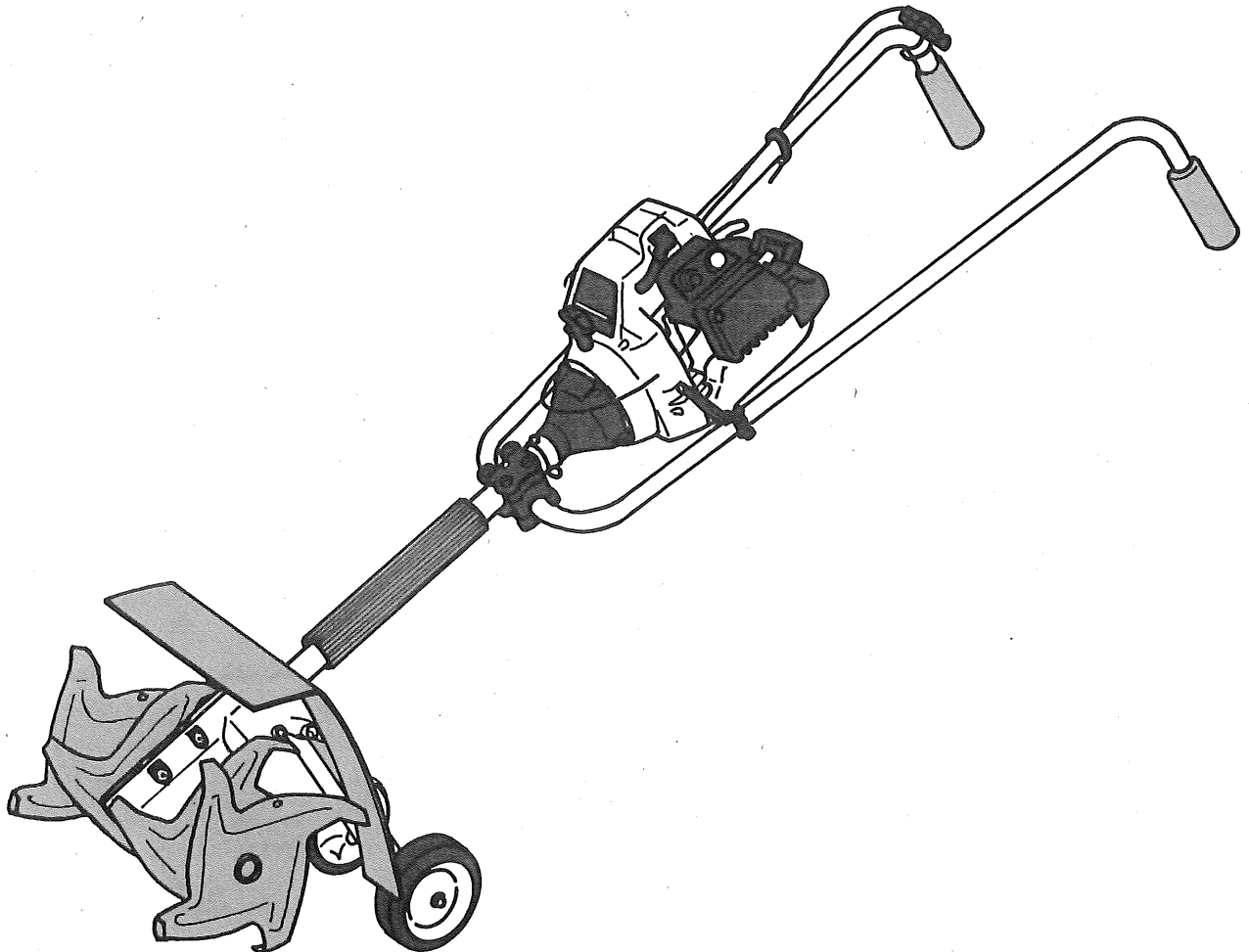
カルチベータ(専用機)

RCV-1100

取扱説明書

このたびは、リョービカルチベータ(専用機)をお求めいただきまして、まことにありがとうございます。

- この説明書をよくお読みのうえ、正しくお使い下さい。
そのあと大切に保管いただき、わからないときは、再度お読み下さい。



●改良のため、お断りなく仕様、外観を変更することがあります。

●安全に注意して、正しくご使用いただくために……

ご使用前は

- 服装は作業に適したすそじまりのよい服装に心がけ、保護メガネや防振性のある手袋等、保護具を着用してください。
- 説明書はよくお読みください。小さいお子様や説明書を理解していない人の運転は、させないでください。
- 機械はいつもきれいにしてください。

ご使用中は

- カルチを始動したり、運転したりする時は周囲に充分注意して、必ず一人で（補助者なし）操作してください。
- 回っている刃物に、手はもちろん身体や衣服を近づけることは大へん危険です。
- 運転中は両手でしっかりとハンドルを保持し、安定した姿勢で使用してください。
- 作業を中断したり、移動するときはエンジンを停止してください。
- 運転中、刃物を石など障害物にぶつけたときは、すぐにエンジンを停止させ、異常の有無を確認してください。

ご注意

- 石や草がからみ、刃物が回転しなくなった時は、必ずエンジンを停止させてから除去してください。

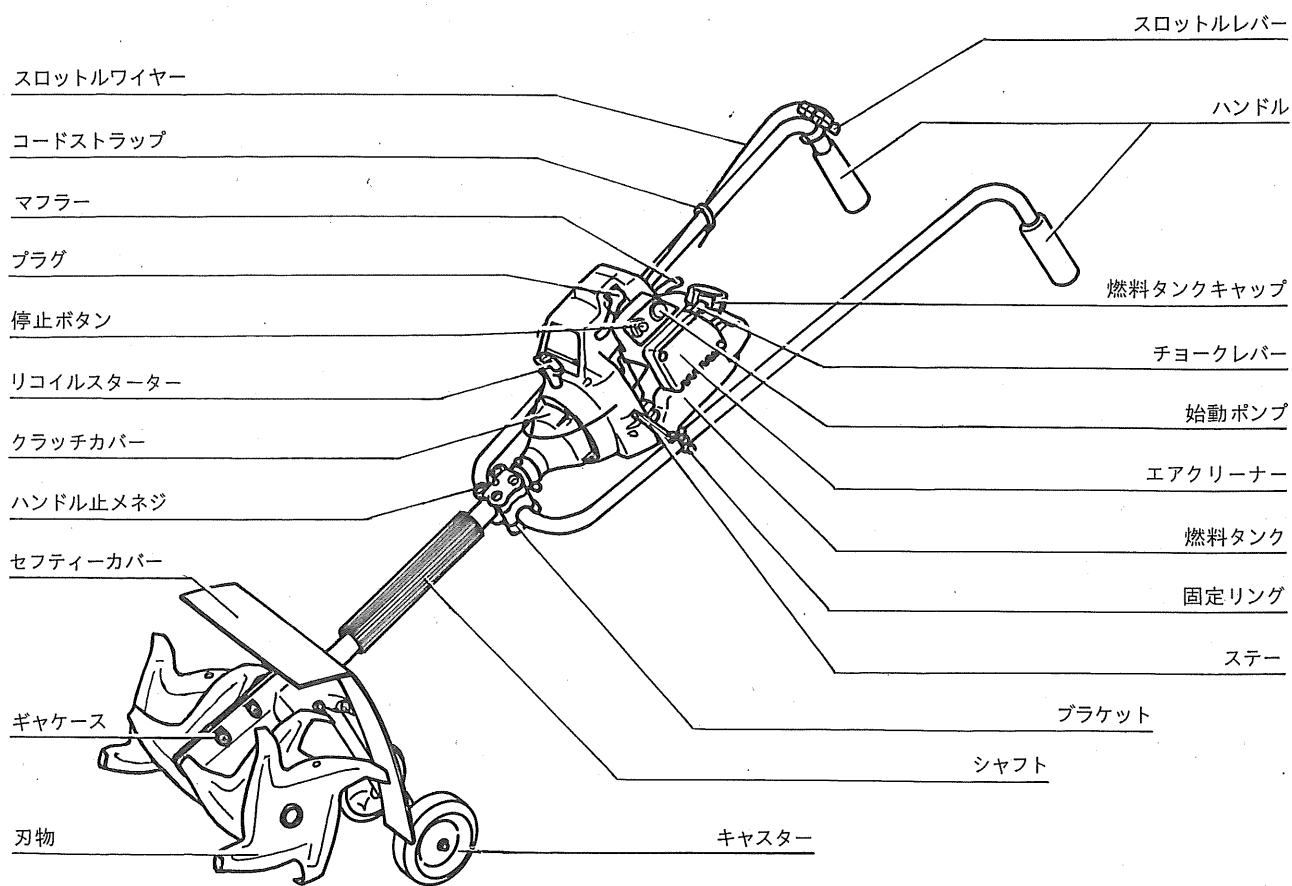
燃料について

- 燃料は引火しやすいので注意して取扱ってください。
燃料補給や手入れの際は、タバコを吸ったり、火気を近づけたりしないでください。
- 補給は必ずエンジンを停止させてから行なってください。
- 燃料は混合燃料です。
正しく混合された、新しい燃料を使用してください。

ご使用後は

- 燃料を空にしてください。
- 汚れを取り除き、ネジ類のゆるみ、破損個所の有無、点検を行なってください。
- 補用部品は指定の純正部品をご使用ください。

各部の名称



仕様

型式		RCV-1100	
機体寸法	長さ×幅×高さ	mm	1,200×455×815
重さ		kg	10
エンジン	形式		空冷2サイクル単シリンダ
	排気量	cc	28.5
	最高回転数	r.p.m.	(エンジン)8,500・(刃物)180
	キャブレタ		ダイヤフラム式
	マグネット		電子点火方式、フライホイールマグネット
	スパークプラグ		DJ8J
	始動・動力伝達		リコイルスタータ、自動遠心クラッチ
燃料	混合比		20~25(ガソリン) : 1(2サイクル専用エンジンオイル)
	タンク容量	ℓ	0.5(連続運転・約30分)
装置	操作		両手ハンドル・固定式スロットルレバー
	刃物		4枚刃(210×19×1.7mm)
能力	耕うん幅	cm	24
	耕深	cm	6

通常付属品

⊖ドライバー付ソケット、混合容器

使用の準備

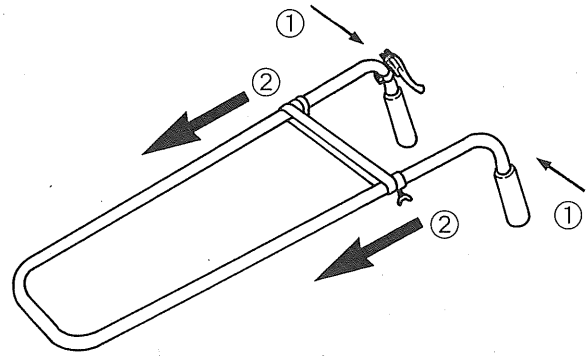
(各部の組み立て)

●ハンドルの取付け

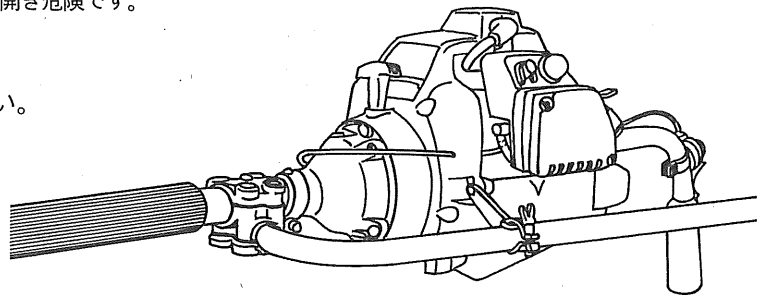
●開梱してハンドルと本機を出してください。右図の様にハンドルはプラスチックのバンドで止めています。

ハンドルを内側へやや寄せてください。①
バンドを矢印方向へずらして外してください。②
(注意)

・カッターナイフ等でバンドを切ると一気にハンドルが開き危険です。

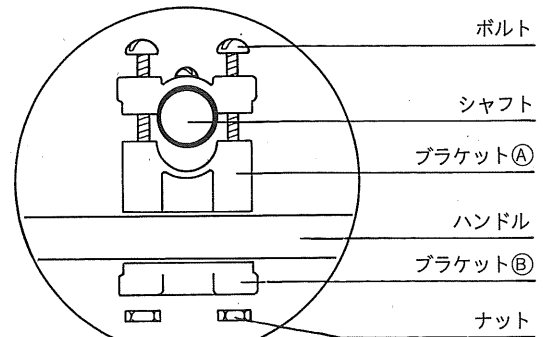


●本機にハンドルを右の図の様に取付けてください。



両面に凹部のあるブラケット④をシャフトの下に合わせます。(凹部の太い方が上のシャフト側に合わせます。) つぎにハンドルを合わせ、薄い方のブラケット⑤で固定します。

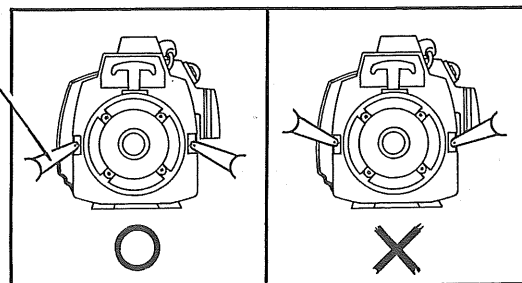
※あらかじめハンドルに通してある固定リングは、グリップの側へ1つづつ寄せておきます。
※ブラケットを締付け固定するボルト4ヶ所は、対角線上に均等に締付けてください。



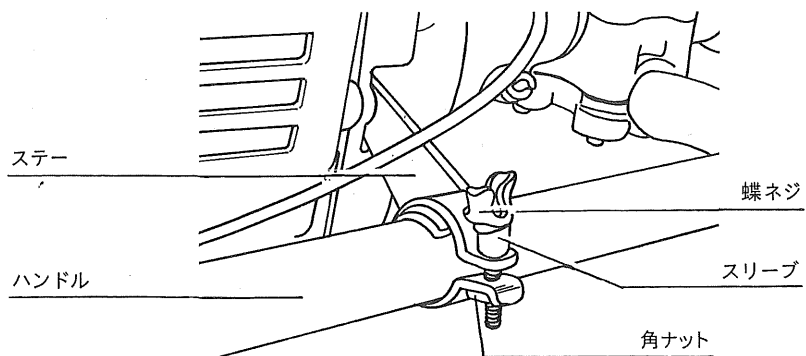
〔正面〕

●ステアの位置(角度)は右図を参考に、本機のシャフトとハンドルが平行になるようステアの位置を調整します。固定リングでステアとハンドルを締付けて固定します。

ステア



〔正面図〕

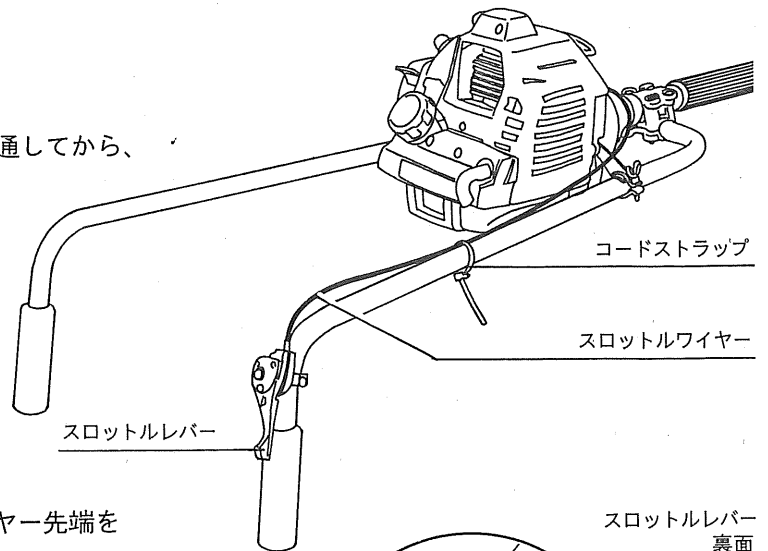


●スロットルワイヤーの取付け

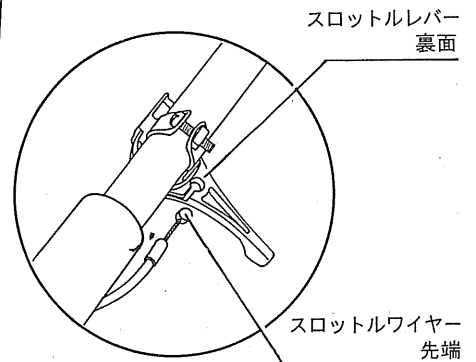
- スロットルワイヤーはリコイルスタータの前を通してから、スロットルレバーの方へ持っていきます。

変更

本製品は、あらかじめスロットルレバーにスロットルワイヤーが取り付けられています。イラストを参考に、右ハンドルにスロットルレバーを取り付けてください。

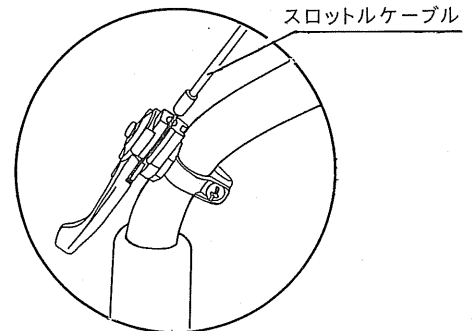


- スロットルレバー裏面の丸穴にスロットルワイヤー先端を入れ、溝にスロットルワイヤーを収めます。



- スロットルケーブルを引き、スロットルケーブル先端の金具がスロットルレバーの付け根の溝(穴)に収まるようにします。

※スロットルケーブルを引きすぎないように注意してください。



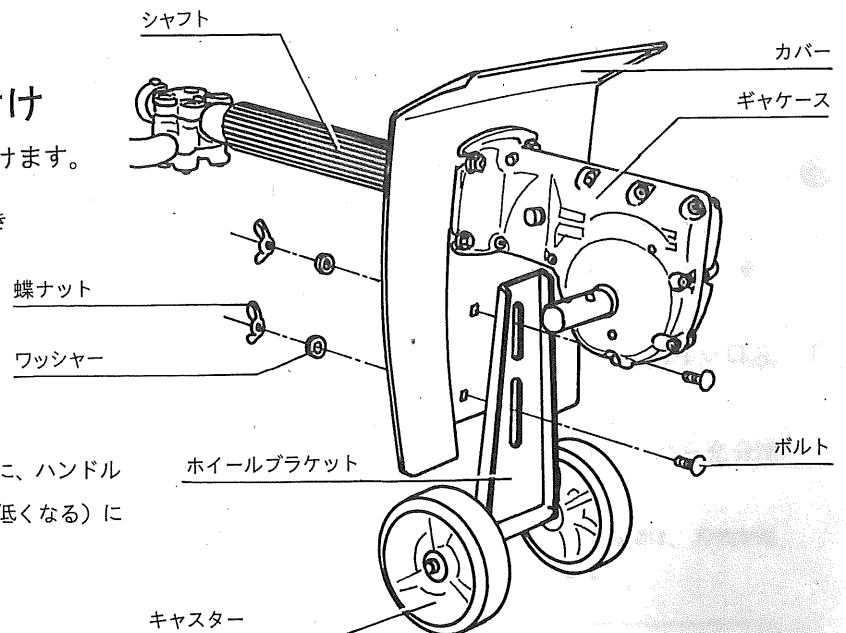
- スロットルワイヤーがスロットルレバーにセットできたら、コードストラップでスロットルワイヤーをハンドルに添わせ締付け固定します。

※スロットルレバーから本機寄り(約30センチ位)の位置で締付け固定してください。

●ホイールブラケットの取付け

- ホイールブラケットを右図のように取付けます。

※図はわかり易いように刃物をはずして書きおこしてあります。



- ※高さは、刃物の下端とキャスターが接地したときに、ハンドルのグリップ位置が、使用する人の腰よりやや下(低くなる)になるくらいを目安としてください。

●燃料

●ガソリンと2サイクル専用エンジンオイルを混ぜた混合燃料です。

ガソリン20~25に対して、2サイクル専用エンジンオイル1

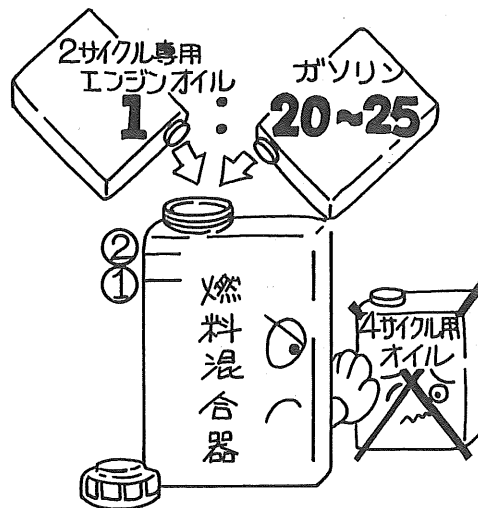
- 付属の混合容器にて必要に応じた量の燃料を作ってください。
- 容器の①の線までガソリンを入れた後、②の線にくるまで2サイクル専用エンジンオイルを加えて入れてください。
- 容器のキャップを開め、よく混ぜ合わせてから、本機の燃料タンクに移します。

※指定の2サイクル専用オイル以外のオイルや、異った混合比率の燃料は、エンジン不調や故障の原因となります。

必ず指定の2サイクル専用オイルを比率に合わせ、正しく混合し使用してください。

ガソリンとオイルの混合割合表

混合比	ガソリン(ℓ)	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
20 : 1	オイル(cc)	50	100	150	200	250
25 : 1	オイル(cc)	40	80	120	160	200



〈注意〉

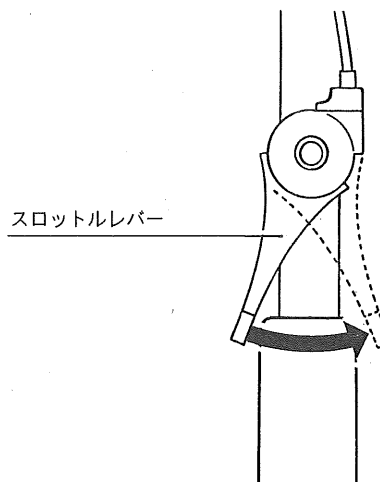
・購入後2~3ヶ月以上経過した古いガソリンや夏季等、高温時に作られた古い混合燃料は蒸発などから混合比が変わっていたりしてキャブレタに悪影響を与えエンジン不調等、故障の原因になります。

新しい燃料を使用するよう心掛けると共に、1日に使用する量に見合った量の混合燃料を用意するようにしてください。

●始動

※エンジンが始動すると同時に刃物が回転します。周囲の安全に充分注意してください。

1. スロットルレバーを1/3~1/2くらい開いてください。



2. エンジンが冷えている時はチョークレバーを全開の位置（閉）にしてください。

※エンジンが暖まっている時（停止後、15分くらいの内）はチョークレバーの操作は不要です。

3. 始動ポンプを数回押して燃料を送ります。

※チョークレバー同様エンジンが暖まっている時（停止後、15分くらいの内）は、始動ポンプの操作は不要です。

4. リコイルスタータ（ロープ）を初爆音（最初の爆発音）が聞こえるまで数回、素早く引いてください。

※リコイルスターターのロープを軽く引き出し全長を確認した後に、全長の8割くらいの長さを利用して引くよう心掛けてください。全部を引いてかけますと、引きちぎる恐れがあります。

※初爆音を聞きのがさないよう、注意してください。また、初爆音があっても、そのままエンジンがかかりません。

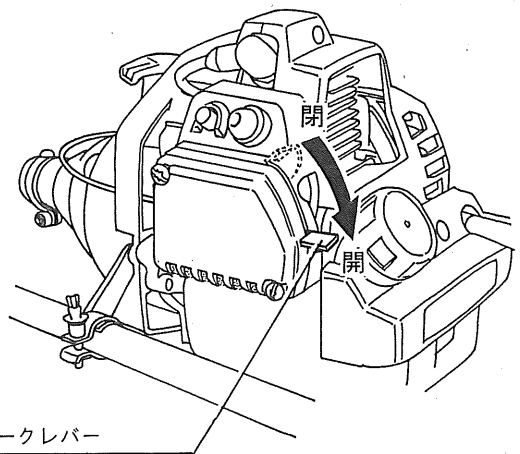
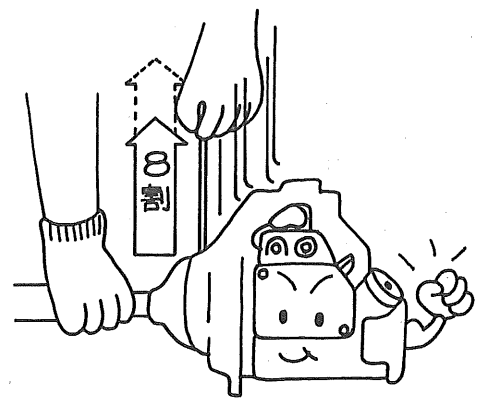
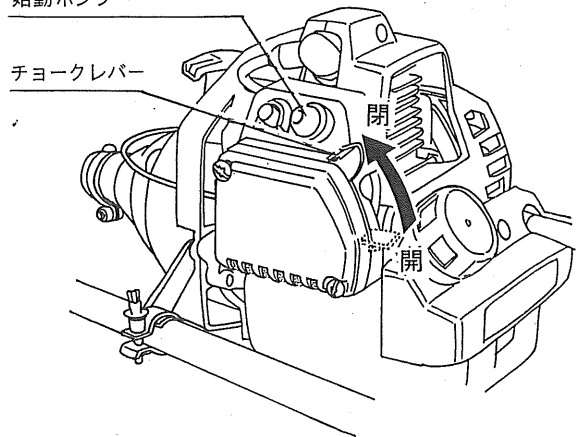
5. チョークレバーを全開の位置に戻し、再びリコイルスタータを素早く引き、エンジンを始動してください。

※始動しない場合は「2. チョークレバーを全開」の項に戻り、操作を繰り返してください。

6. 始動したら、30秒くらいはそのまま暖気運転をしてください。その後、スロットルレバーを戻し、アイドル状態にします。

始動ポンプ

チョークレバー



チョークレバー

●吸い込み過ぎについて

- 初爆音を聞き逃がし、チョークレバーを全開のままリコイルスタータを何度も引いたときは、チョークレバーを全開にしスロットルレバーをいっぱいに開いて、リコイルスタータを素早く数回引いてください。

- その場合、初爆音を聞き逃がしてからリコイルスタータを引いた回数、あるいはその回数の2倍近くの回数を引かないと始動しません。

- 燃料の吸い込み過ぎは回復が大変ですから充分注意してください。

※エンジンが始動し、暖気運転をしている間は、刃物が高速で回転しますのでご注意ください。

● 運転

- アイドリング状態からスロットルレバーを除々に開き、エンジン回転を上げ、全開にしてから、耕耘作業に入ります。

※耕耘作業中はスロットルレバーを全開にし、エンジン回転を上げるようにしてください。但し、耕耘作業をしない状態での空回転（中速以上の回転）や、空吹き（突然に回転を上げること）は、過回転から、エンジン故障の原因になりますので行なわないでください。

〈注意〉

- ・刃物部に異物がはさまったりして、刃物の回転が停止したときは、必ず、エンジンを停止させてから異物を取り除いてください。
- ・運転中、異常を感じたときも直にエンジンを停止させてください。

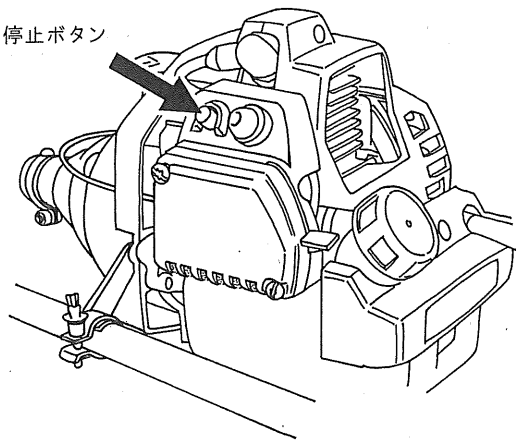
● 停止

- スロットルレバーを戻し、低速（アイドリング状態）で冷却運転をしばらくつづけてから停止スイッチ（停止ボタン）を押してエンジンを停止します。
- 停止スイッチは、エンジンが完全に停止するまで押しつづけてください。

〈注意〉

- ・異常を感じたときは、直に停止スイッチを押して停止させてください。エンジンが完全に停止したことを確認してから、異常個所の点検をしてください。また、スロットルレバーは忘れず戻しておいてください。

停止ボタン



● 正しい操作法

● 基本的な作業

- ・ハンドルを両手でしっかり握り、移動が容易な体勢で作業をします。
- ・スロットルレバーを開き、エンジンの回転を上げて荒地の草刈りや、草の根掘り等の作業をします。
- ・土を深く掘る場合は、本体を前後に動かすと容易にできます。



〈注意〉

- ・石や異物が刃物部にはさまったり、草などが刃物部にかまったりして、刃物の回転が止まったときは、必ずエンジンを停止させてから、これらのものを取り除いてください。エンジンが回っているときに、これらのものを取り除くと不意に刃物が回り危険です。

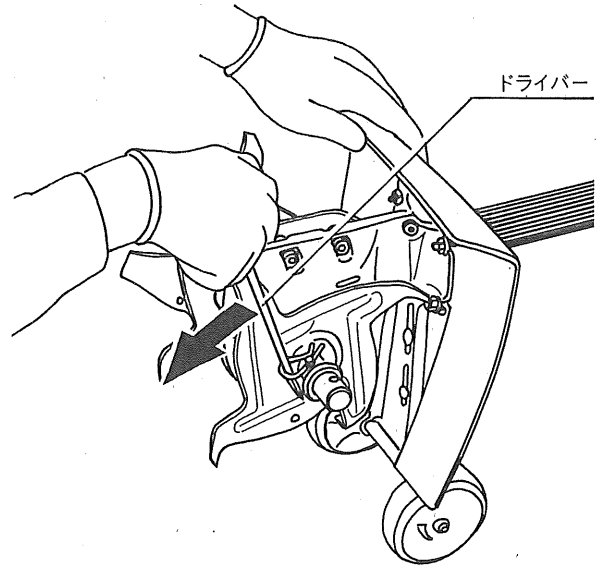
点検と整備

● 刃物

- 使用後は、汚れを取り除き、破損、異常がないかを点検してください。
- 刃物に石など異物をはさまったり、草などがからみ、取れなくなったときは、刃物を取り外しこれらのものを除去します。異常が無いかも点検してください。

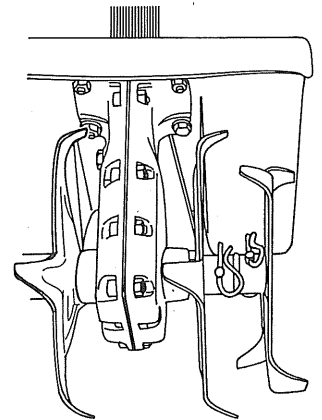
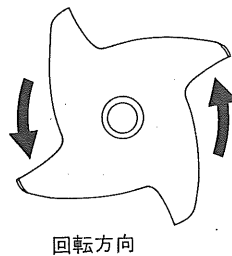
※刃物を取り外す際は、刃先にボロ布などを巻きつけ、手にも手袋を着用するなど、ケガの無いよう注意して行なってください。

- 固定ピンの止め輪にドライバーなどを差し込みこじるようにして止め輪を抜くと固定ピンが抜けます。固定ピンを抜くと刃物は簡単にはずせます。



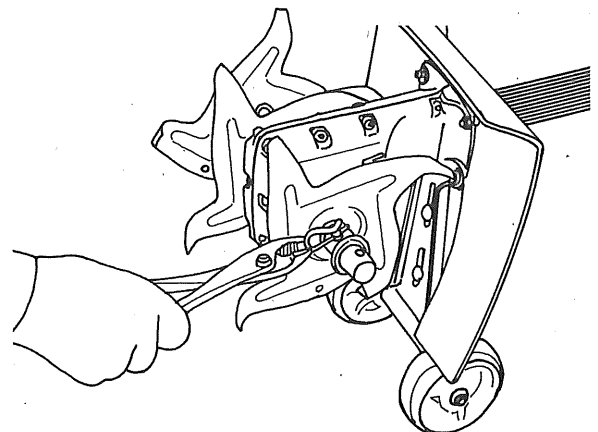
- 組み付ける際は刃物の向きに注意して元の状態の様に組み付けてください。

〈注意〉
刃物は刃先部分が丸い方を回転方向の前側にしてください。



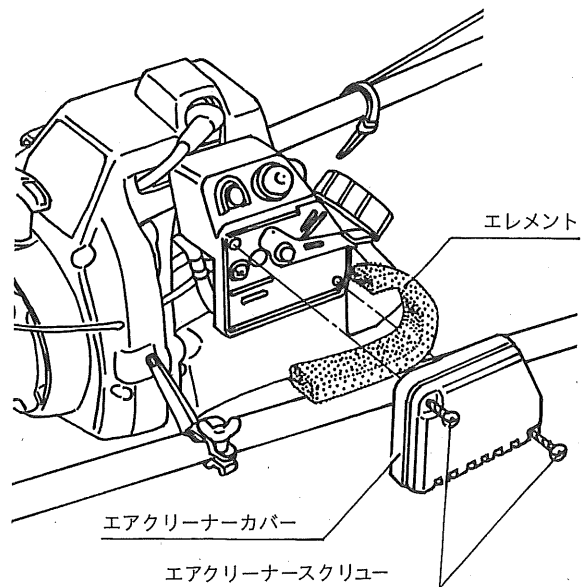
- 刃物を回転軸に入れ、固定ピン用の穴位置を合わせます。つぎに、この穴に固定ピンを通し、プライヤー等で止め輪をつかみ、固定ピンの穴に押し込み、入れてください。

※確実にリング部まで入っていることを確認してください。



●エアークリーナー

- エアークリーナー screws (2本) をはずし、エアークリーナーカバーを取りはずします。
- 内部のエレメントの汚れを点検します。軽くゴミを払うか、汚れのひどいときは、ガソリンで洗い、乾いてからエアークリーナーカバーに取り付け使用します。

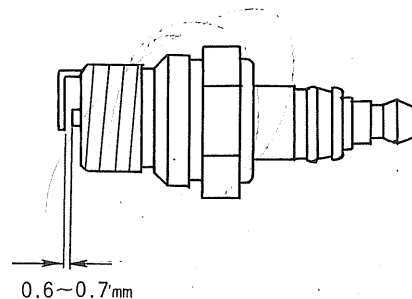


●スパークプラグ

- スパークプラグの適正な電極間隔は、0.6~0.7ミリです。

[チャンピオン DJ 8 J]

常に適正な間隔を保ち、カーボンや油などによる汚れに注意して、清掃の上ご使用ください。



保管

- タンクキャップをはずし、タンク内に残った燃料も出して、始動ポンプも数回押して、内部に残った燃料も出してください。
- エンジンを始動させ、自然にエンジンが停止するのを待ちます。(キャブレタ内に残った燃料を空にするためです。)
- エアークリーナーを清掃すると同時に各部の汚れを取り除いてください。
- エンジンが充分冷えていることを確認してから、直射日光のあたらない、湿気の少ない、冷暗所の安定したところで保管してください。(ホコリがかからないようカバーなどをしておいてください。)

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上
ご不明の点があった場合には、お買い求め
の販売店または、全国各地のリョービ電動
工具販売店、リョービ販売各営業所にお問
い合わせください。

発売元  **リョービ販売** 株式
RYOBI 会社

 **リョービ** 株式
RYOBI 会社